

稲作情報

秋田地域振興局 農林部 農業振興普及課

No.4

TEL:018-860-3410

FAX:018-860-3834

目標茎数を確保したら、速やかに中干しを実施！

1 気象経過と生育状況

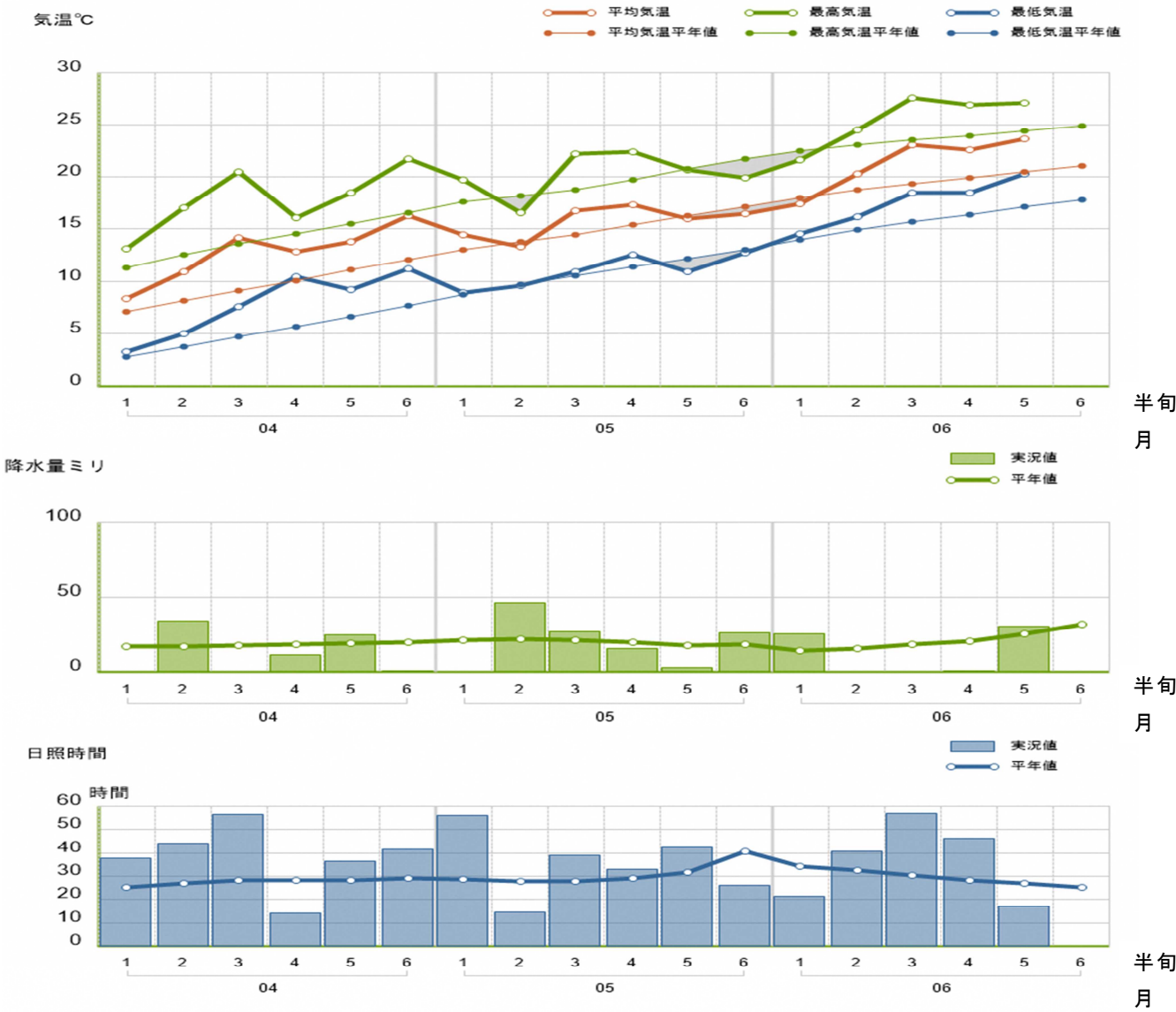


図 気象経過と平年値（アメダス秋田、秋田県農業気象システムから引用）

〈気象と生育の概況〉

5月6半旬～6月1半旬の気温は低く推移しましたが、6月2半旬以降は高くなりました。今後も気温が高い予報となっています。

6月25日の定点調査（あきたこまち：10地点平均）では、草丈は42.7cm（平年比108%）と長く、茎数は502本/㎡（同比123%）とかなり多く、葉数は9.7葉（同差+0.7葉）と多く、葉色は43.5（同比98%）とやや淡くなりました。6月2半旬以降の好天により生育が進み、分けつの発生が促進されたと考えられます。

表 水稻定点調査結果（6月25日調査）

	本年	比較	
		平年比・差	前年比・差
草丈	42.7cm	108%	92%
茎数	502本/㎡	123%	109%
葉数	9.7葉	+0.7葉	+0.3葉
葉色 (SPAD)	43.5	98%	100%

※ 管内定点ほ場 10 地点（あきたこまち）の平均値

2 水管理、中干し・溝切り

- ① あきたこまち(目標収量 570kg/10a、中苗)の目標穂数は 440 本/㎡(70 株/坪植えの場合で1 株当たり約 20 本、60 株/坪植えの場合で1株当たり約 23 本)です。6月 25 日頃(8.5 葉期頃)が目標茎数(目標穂数と同じ茎数)を確保する目安時期ですが、一部で目標茎数を確保できていないほ場も見られます。
- ② 目標茎数を確保していないほ場では、浅水管理で水温と地温を高め、分げつの発生を促進してください。茎数が十分に確保できない場合は中干しの開始を遅らせるとともに、強い中干しは行わないようにしてください。
- ③ 目標茎数を確保したほ場では、速やかに中干しを行い分げつの発生を抑制します。中干しの期間は、7～10 日程度を目安とし、田面に亀裂が1～2cm 入り、足跡が付く程度とします。
- ④ 溝切りは、その後の水管理や秋作業の効率化につながるため、積極的に実施しましょう。
- ⑤ 幼穂形成期(7月 15 日頃)に土壤水分が不足すると1穂粒数の減少を招くため、中干しは幼穂形成期前には必ず終了してください。
- ⑥ 中干し後は間断かん水を基本としますが、減数分裂期頃は低温に弱い生育ステージとなるため、今後の気象経過に注意し、低温時は深水にして保温してください。

3 病虫害防除は適切に実施

① いもち病(葉いもち)

6月 25 日に病虫害防除所から発表された農作物病虫害発生予察情報発生予報第3号(7月 予報)によると、葉いもちの全般発生開始期はやや早い、発生量は平年並と予想されています。定期的にはほ場の検診を行い、いもち病の早期発見・早期防除に努めましょう。また、余り苗はいもち病の発病の有無にかかわらず、直ちに泥の中に埋めて処分してください。



写真 葉いもちの病斑

② 斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ)

畦畔における斑点米カメムシ類の発生量が多いとして、6月 20 日に病虫害防除所から農作物病虫害防除対策情報第7号が発表されました。農道・畦畔、休耕田に出穂しているイネ科雑草が多いと、斑点米カメムシ類の発生量が多くなることから、稲が出穂する 15～10 日前まで継続して除草(草刈り)を行い、イネ科雑草が出穂しない管理に努めます。なお、草刈りは可能な限り地域で一斉に行ってください。

また、水田内に雑草が多発すると、斑点米カメムシ類の主要種であるアカスジカスミカメの水田内への侵入が助長されます。そのため、水田内雑草が発生している場合は発生雑草の草種や生育程度を観察して、適切な中・後期除草剤を選択し、雑草防除を徹底してください。

4 大雨対策について

6月 23 日に東北地方が梅雨入りしたほか、6月 20 日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月 予報によると、向こう1か月の降水量は平年並か多いと予報されています。昨年のような集中豪雨が発生する可能性もありますので、冠水・浸水した場合に速やかに排水されるよう、事前に排水溝や排水路の点検を行ってください。また、大雨により水路が増水している場合は、危険ですので絶対に近づかないでください。

◇次号は 7 月 7 日頃の予定です。